

## PACIS2019 西安 大会ルポ

杉村宏之 株式会社中川ケミカル

2019年7月9日(火)～12日(金)の4日間にわたり、中国・西安の陝西賓館(Shanxi Guesthouse)において、PACIS (Pacific Asia Conference on Information Systems) 2019が開催されました。PACISは、経営情報学分野において世界で最も権威のある学会、AIS (Association For Information Systems) のアジア太平洋地域版の国際会議です。参加者はアジア太平洋地域に留まらず、世界中から研究者・実務家をあわせ500人以上が参加しています。

今回のテーマは Secure ICT Platform for the 4th Industrial Revolution. AI, 自動運転, ドローン, 3Dプリンタなどの革新技術が第4次産業革命を実現しつつある今、インターネットプラットフォームの安定性をどのように確保するかを、本学会の主眼に据えていました。

大会委員会による公式発表では、今年の参加者は571人。発表の申し込みはポスター発表も含めて515本あり、そのうち採択されたものが232本(採択率45.0%)でした。内訳は Complete Paper が140本(採択率44.3%)、Research-in-progress (ポスター発表)が92本(採択率46.2%)となっており、両者の採択率に大きな違いはなかったようです。また、前回の横浜大会の採択数339本に比べると発表数はかなり少なかったですが、採択率には昨年の44.7%から大差がありませんでした。今大会における日本からの投稿者数は計34名で、国別で10位となっていました。

投稿論文の分野を見てみると、25 trackのうち、Human Behaviour and IS に15本、Information Technology in Healthcareに11本、IS Education and e-Learningに9本の発表があり、これらの分野に対する世界のIS研究者の関心の高さが伺えました。また今回は特別に中国語で行われる Chinese Track も用意されており、ここでも32本が採択されました。

12日(水)は朝から立て続けに4本の基調講演があり、Robinson College of Business, Georgia State University の Arun Rai 氏を初めとする中国内外の



写真1 西安の観光地 ※Wikipediaより



写真2 壮大会場



写真3 情緒溢れる会場の庭園

Keynote Speakerが演台に上がりました。テーマはAIに関わるものが多く、ここでもIS研究の潮流が表れていました。

同日の昼からはポスター発表セッションを開催。筆者の属する研究チームも“List of Heartwarming Events: Developing an Alternative Approach to Measure and Analyse Well-being in the Social Context”と



写真4 Keynote会場



写真5 にぎわうポスター発表会場



写真6 ポスター前での質疑応答

いうタイトルで発表し、世界各地の研究者との有益な意見交換に成功しました。今回の発表を通じて新たに浮かび上がってきた課題に対してさらなる研究を深め、今後のJASMIN研究発表大会での発表や学会誌への投稿へとつなげて行きたいです。

また他の日本から遠征したメンバーも、“Smart Services and Internet of Things”や“Strategy, Structure, and Organizational Impacts of IT”のTrackで発表したり、“Changing Nature of Work with ICT Workshop”に登壇して日本の職場環境の特異性を注目されたり、様々な発表会場を回って活発に意見交換したりと、人数が少ないながらも精力的に動き回っていました。

なお、ポスター発表の運営自体は非常に大らかでした。例えば発表場所は特に決まっておらず、先着

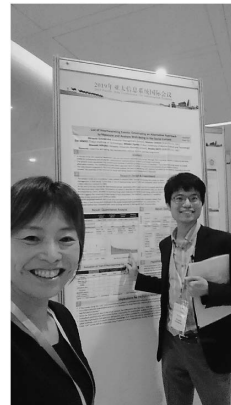


写真7 研究チーム記念撮影

順の早い者勝ち。しかも12時30分～14時と15時30分～17時の2部交替制だったのですが、発表時間が過ぎても撤去しないポスターが続出。貼りっぱなしでそのまま帰ってしまった発表者も散見されました。さらに発表時間もあつてないようなもので、筆者のグループは15時30分開始予定だったものの、14時半にポスターを貼ってからはライティングで長時間発表・意見交換することができました。

他の発表会場でも、Track Chairが会場に現れなかったり、Workshopでの発表時間が会場入り後に半分以下に削減されたりと、臨機応変さを随所で要求された大会だったようです。初の国際大会参加だった筆者にとっては、文化の違いを肌で感じられた大会運営でした。

同日の夜にはGala Dinnerが開催され、中華料理と白酒が振る舞われました。西安は特にジャンジャン麺が有名なようで、この日に限らずほぼ毎食で麺料理が用意されました。そして西安は内陸に位置するため、料理は比較的辛め。日本からの参加者の多くは、香辛料を皿の隅へと注意深く選り分けたのでした。

今回の開催地となった西安は中国の古都であり、かつては長安とも呼ばれていました。シルクロードの起点でもあり、紀元前11世紀以降は約二千年に渡り王都として栄えています。市内外に観光名所が点在しており、秦始皇帝の広大な陵墓である「兵馬俑」、三蔵法師ゆかりの「大雁塔」、シルクロードの名残を感じさせるイスラム教徒の街「回民街」、さ



写真8 盛りだくさんの食事



写真9 夜の西安

らには市街地を囲む城壁や楼など、見どころには枚挙に暇がありません。大会会場にはツアー会社のブースも出ており、多くの中国内外からの参加者が西安名所めぐりツアーへと申し込んでいました。

また11日（木）の夜には希望者による Social Event もあり、1200年前の唐代の詩人白居易による壮大な「長恨歌」を観劇できました。会場となった華清池は3000年以上の歴史をもつ温泉地で驪山のふもとに位置し、かの兵馬俑の近くでもあります。玄宗皇帝と楊貴妃のロマンスの舞台として有名な場所で、豪華絢爛な野外舞台劇が繰り広げられました。

大会の Gala Dinner においては、2020年 PACIS 大会に関する発表もありました。来年の開催地は



写真10 次回開催地ドバイ ※ Wikipedia より Dubai Sunset from Burj Khalifa (撮影者：Simon Bierwald)



写真11 日本チームで記念撮影

アラブ首長国連邦第二の都市ドバイ。“Information Systems for the Future”をテーマに、2020年6月20～24日にかけて開催されます。2019年8月時点で既に18Trackが用意されており、論文投稿の締切は2月20日となっています。

公式HPも既に立ち上がっていますので、ぜひご覧ください。

PACIS2020 公式 HP <http://www.pacis2020.org/>

以上